



「活きていることわざ」

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 市議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117

Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

後悔先に立たず。一念天に通ず

【後悔先に立たず】◇済んでしまったことを、あとで悔やんでも取り返しがつかないこと。

【一念天に通ず】◇成し遂げようとする固い決意があれば、その心が天に通じて必ず成就する、ということ。

平成24年度の当初予算を賛成多数により議会で承認しました。前号でお知らせしましたが、一般会計が1735億5000万円、特別会計が1257億4200万円です。

私は予算委員として、無償で全戸配布する市民便利帳、防災対策（防災行政無線・津波ハザードマップ・避難所など）、災害時要援護者と安心登録カード事業、保育園の安全対策、農産物ブランド推進事業、農業体験講座推進事業、被災地の瓦礫(がれき)処理などについて質問しました。

3月28日の議会最終日に、この予算の採決を行いました。私たちが党派と自由市政会、公明党、民主党が賛成し賛成多数で可決したものです。共産党と市民社会ネットは「東葉高速鉄道への出資金は認められない」など、みんなの党は「住宅リフォーム地域経済応援事業費は認められない」などとして反対しました。

なお「当初予算」とは、新年度の最初の予算組みで、6月・9月・12月議会と翌年の3月議会で、必要に応じて補正予算を組みますので、最終的には数十億円から百億円単位で増額になることが常です。ちなみに、平成23年度の当初予算の一般会計が1719億7000万円、今回の3月議会までの補正で、最終的に1861億5399万円となり、141億8399万円増額となりました。増額の主な理由は、国や千葉県からの補助金が交付されたことによります。これにより様々な施策が追加できるようになります。

今号はそのうち、保育園の安全対策と被災地の瓦礫処理についてご報告します。

①保育園の安全対策について

待機児童を少しでも減らそうと、保育所用地を購入したり、新設する保育園に助成します。飯山満町1丁目に民間の保育園が開設します。また習志野台第一保育園なども建て替えます。



それぞれ近くに小学校などがあり、正門が通学路に面しています。保育園に送迎する保護者の車両は路上に停めたりして危険ですし、保育園内の駐車場に停めても、出庫す



る際、すぐ前面が歩道となっていること、正門には門扉があり見通しが悪くなっていることなどがあり非常に危険です。

『後悔先に立たず』ですから、せめて見通しのよいフェンスにするとか、出庫の際にブザーが鳴る警報装置を設置するとか、人的配置を考慮することを求めました。

②被災地の瓦礫処理について

この件は、3月13日の本会議の議案質疑でも取り上げました。岩手・宮城・福島県では、大津波により発生した瓦礫が2253万トンもあり、まだ6%ほどしか処理できていません。被災地の復旧・復興には、この瓦礫処理なくして前進はありません。

ところが、福島県を除く2県の瓦礫受け入れを積極的に表明している自治体は、東京都、青森県、山形県など僅かしかありません。みんな放射能を心配する市民の声が怖くて手を挙げられないのが現状のようです。

丁度その頃、野田首相は被災地の瓦礫の広域処理について「被災3県を除く全都道府県に対し、受け入れを文書で正式に要請する」と述べられました。その後処理費用は国負担の方向になりました。私は野田首相の言葉を引用し「震災時に助け合った日本人の気高い精神、国民性が再び試されている」と述べ、本市も積極的に受け入れべきではないか、質問しました。



— 環境部長の答弁 —

瓦礫の引き受けについては、市民の理解を得ることを前提として、清掃工場での焼却飛灰の問題も無くなれば、処理依頼先と協議し、受け入れを検討していきたいと考えております。

との答弁がありました。まだまだ不満でした。その後、千葉市や市川市が条件つきで受け入れを表明しマスコミ報道がありました。野田首相の地元の船橋市が部長答弁のように今一步ではいけないと思ひ、予算委員会で市長の積極的な答弁を求めました。

藤代市長は「被災地である千葉県旭市の瓦礫も受け入れを表明しているが、本市の処理施設は4トン車対応であり、旭市からは10トン車で搬送なのでなかなか難しい問題もある。また、船橋市は自前の最終処分場が無く他県に依存している現状だが、他県が難色を示している。その受け入れの問題が解決すれば受け入れする」と答弁されました。市長答弁は特に重いものですから、市長の「受け入れ表明」の答弁を評価いたします。

市施設は4トン車
対応なんです



受け入れには様々な事情や難問がありますが、『一念天に通ず』是非とも一刻も早い受け入れ態勢が整うことを期待します。